



東日本大震災追悼式



ご冥福を祈る黙祷

東日本大震災から13年となる3月11日、如水の典礼さくらホールにおいて令和5年度浪江町東日本大震災追悼式が執り行われ、ご遺族・来賓あわせて53人が参列しました。

地震発生時刻の14時46分にあわせて参列者全員で黙祷を捧げ、東日本大震災で犠牲になられた皆さんのご冥福を祈りました。

本日ここに令和5年度浪江町東日本大震災追悼式を挙行するにあたり、先の震災で亡くなられたすべての御霊に対し、浪江町民を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。また、1月には能登半島地震が発生し、多くの方が亡くなり、被災されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりお見舞い申し上げます。私たちは、災害と災害の間を生きているのだと改めて、実感いたしました。

東日本大震災から13年、私たちは、町民の皆さまと一緒に町の復興を実現するために懸命に取り組んでまいりました。

福島国際研究教育機構（FIERE）の事業が開始され、福島をはじめ東北の復興を実現するため、国や県と連携し経済成長や町民生活の向上を目指していきます。そして、昨年春には津島、末森、室原の特定復興再生拠点区域で避難指示が解除されました。

津島では十三年ぶりとなる恒例行事などが開催され、少しずつ町ににぎわいを取り戻そうと一丸となって取り組んでいます。

私は3月11日を迎えると犠牲になられた多くの町民の皆さんや震災前の浪江町を思います。これからも町長として、御遺族の皆さんと犠牲になられた皆さんの思いを共有していき、震災があった浪江町を後世へと伝えていきます。



式辞を述べる吉田栄光町長